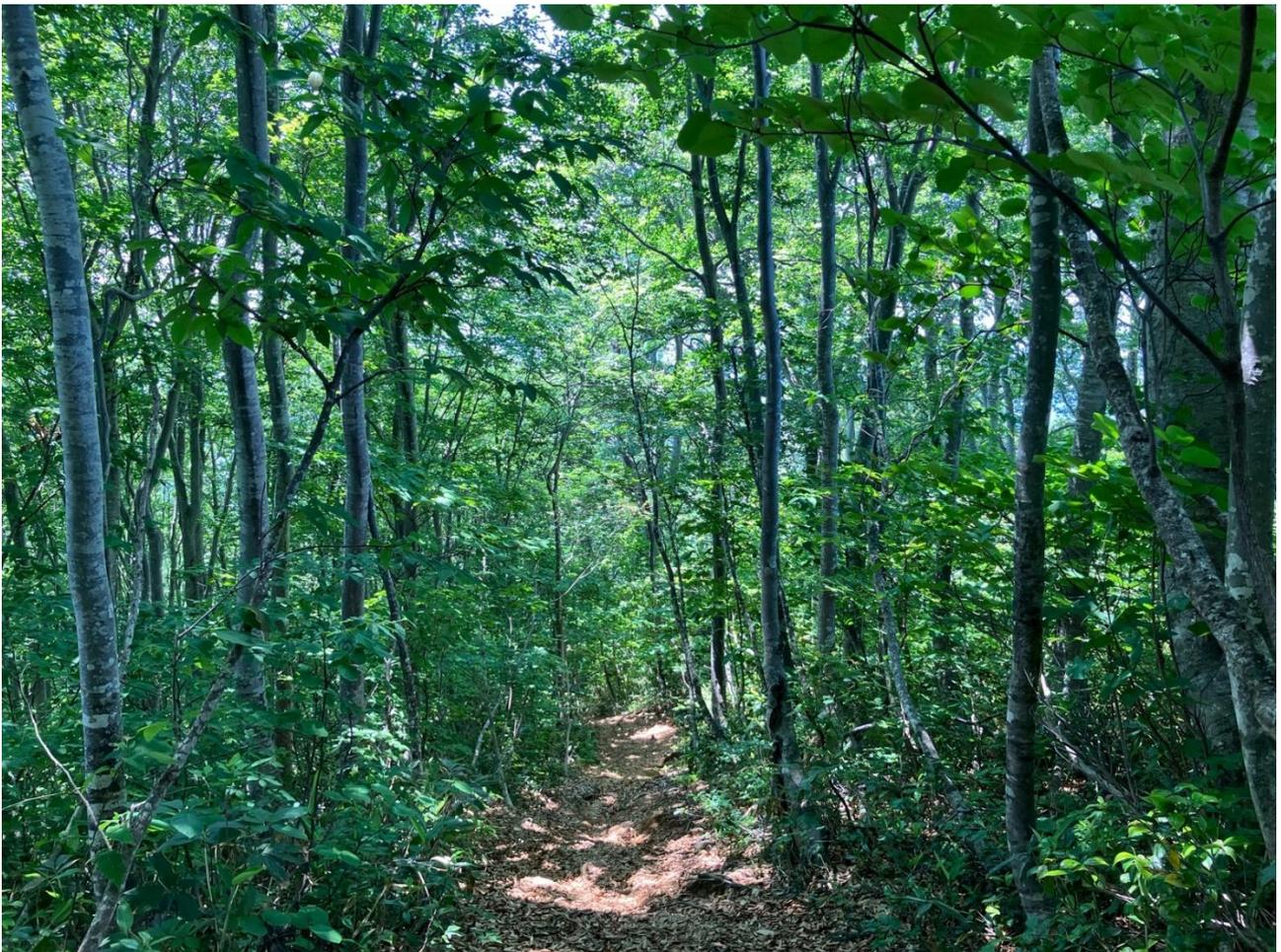


新潟県における主な更新樹種の判別等ハンドブック



令和8年3月

新潟県農林水産部治山課

本冊子は、市町村職員が行う**天然更新の完了確認**において、現地で更新木の**高木性樹種を判別する際の手助け**となることを目的として作成したものである。

天然更新地の**現場で樹種を判別するには一定の経験が求められる**一方で、樹種判別の経験や知識には職員間で差があり、**必ずしも全ての職員が現地で高木性樹種を的確に見分けられる状況にはない**ことから、天然更新の完了確認において判断に迷う場面が生じやすい。

本冊子では、新潟県内に分布する主な高木性樹種を対象に、幼齢木の段階でも比較的確認しやすい**葉の特徴**を中心に整理し、現地での樹種判別を補助する内容としており、**新潟県天然更新完了基準の補助的な資料**として活用することを想定している。

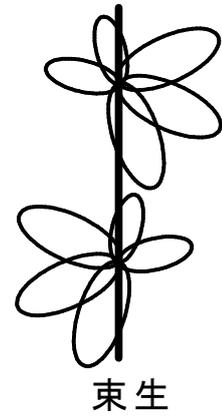
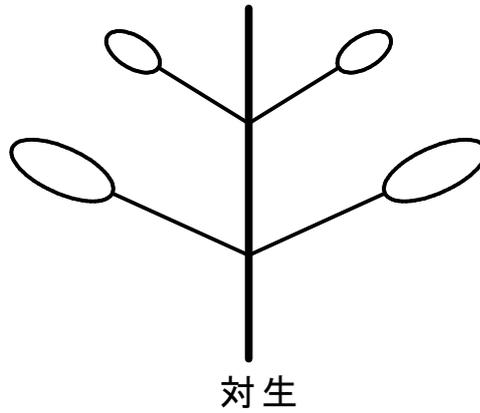
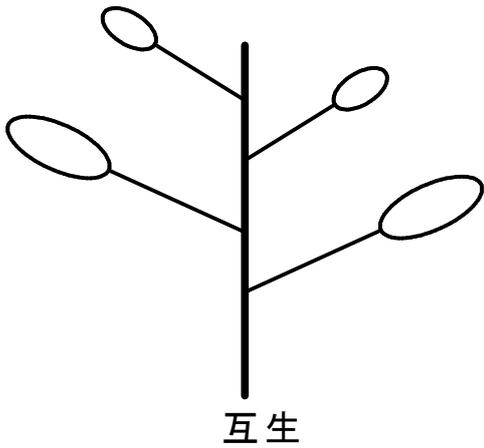
本冊子の活用により、樹種判別に不慣れな職員であっても一定の判断が可能となり、天然更新の完了確認における**判断のばらつきの低減**と**確認作業の円滑化**が図られることを期待する。

● 目次

1 樹木各部の名称	p. 1
2 葉の特徴毎の一覧	p. 2
3 科毎の一覧	p. 5
4 掲載樹種一覧	p. 9
5 樹種判別の資料①～⑳	p. 11
6 新潟県における主な更新樹種（出現頻度別）	p. 49
7 その他（写真撮影例 等）	p. 50

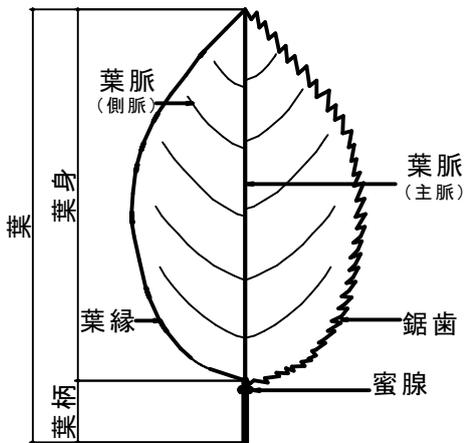
1 樹木各部の名称

葉のつき方

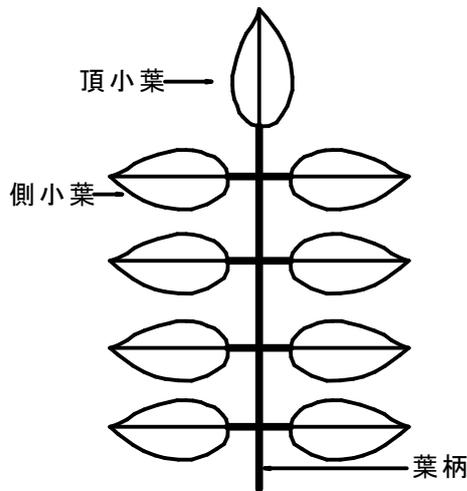


葉のタイプ

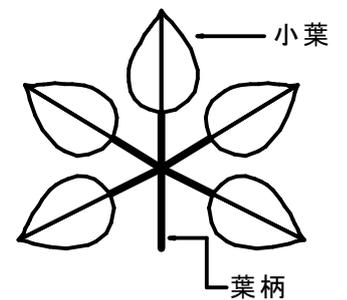
単葉



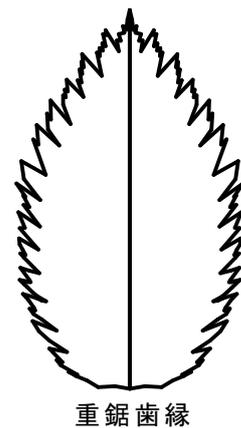
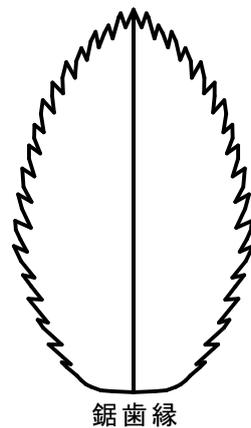
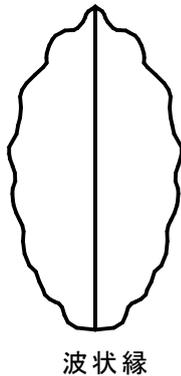
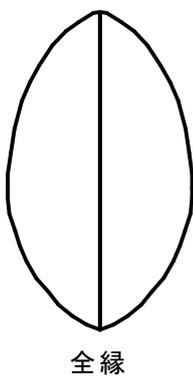
羽状複葉



掌状複葉



葉のふち



2 葉の特徴毎の一覧

A 針のようにとがっている (針葉樹) しんようじゆ

アカマツ(P.13)



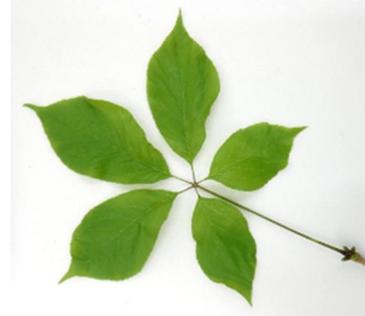
スギ(P.26)



B 複数の葉がまとまっている (ように見える)

B-1 1本の葉のつけ根から、手のひらを広げたように、小さな葉が放射状に出ている (掌状複葉)
しょうじょうふくよう

コシアブラ(P.23)



※樹種名
に下線が
あるもの
は対生
たいせい

トチノキ(P.44)



B-2 1本の軸 (葉柄) の左右に、小さな葉 (小葉) が羽のように並んでついている (羽状複葉)
うじょうふくよう

B-2-1 葉のふちがギザギザしている (鋸歯がある)
きよし

オニグルミ(P.18)



ナナカマド(P.28)



ヤチダモ(P.48)



アオダモ(P.11)



サワグルミ(P.40)



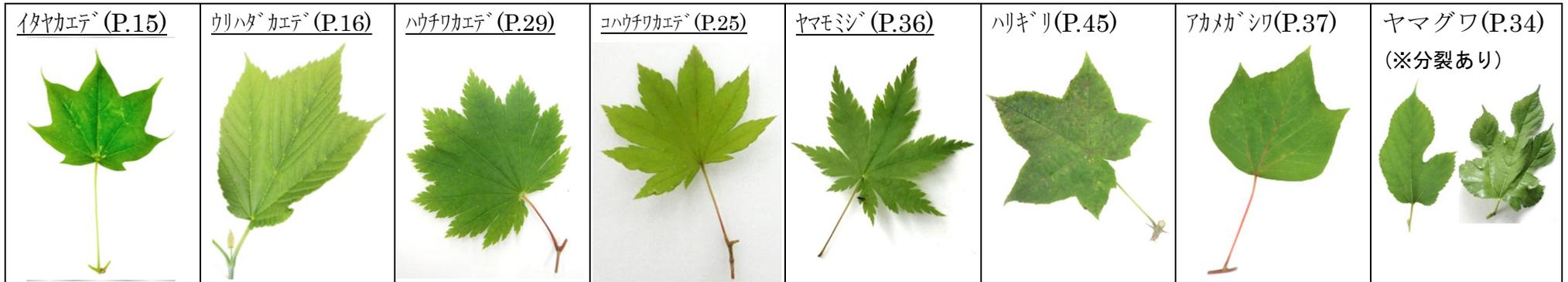
B2-2 葉のふちがギザギザしていない (全縁)
ぜんえん

キハダ(P.20)



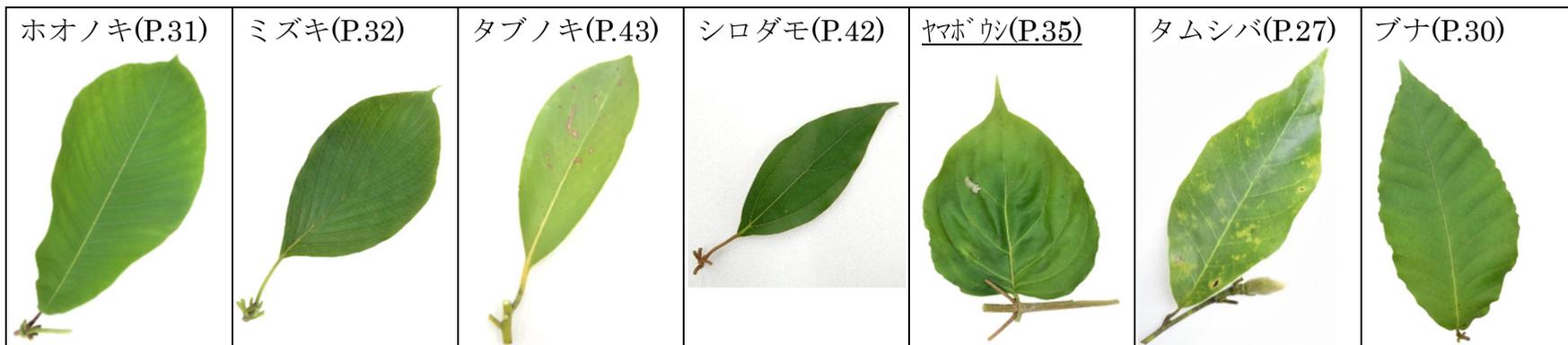
C 1枚だけで一つの葉になっている (単葉)^{たんよう}

C-1 葉のふちに切り込みがある



C-2 葉のふちに切り込みが無い

C-2-1 葉のふちがギザギザしておらずなめらか、またはゆるく波打っている



C-2-2 葉のふちがギザギザしている

C-2-2-1 葉の軸やつけ根に、小さなふくらみや点（腺点）がある

C-2-2-2 大きなギザギザのそれぞれのふちに小さなギザギザがある（重鋸歯）

カスミザクラ(P.19)



ヤマナラシ(P.47)



ウワミズザクラ(P.17)



アズキナシ(P.14)



ケヤマハンノキ(P.39)



ハンノキ(P.46)



C-2-2-3 葉のふちにギザギザが一行に並んでいる

C-2-2-3-1 葉の幅が狭い

クリ(P.21)



C-2-2-3-2 葉の幅が広い

シナノキ(P.41)



材ハボダイジュ(P.38)



C-2-2-3-3 葉の幅中間

ケヤキ(P.22)



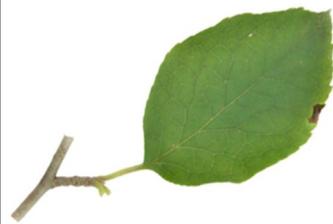
ミズナラ(P.33)



ヤマグワ（※分裂なし）
(P.34)



アオハダ(P.12)



コナラ(P.24)



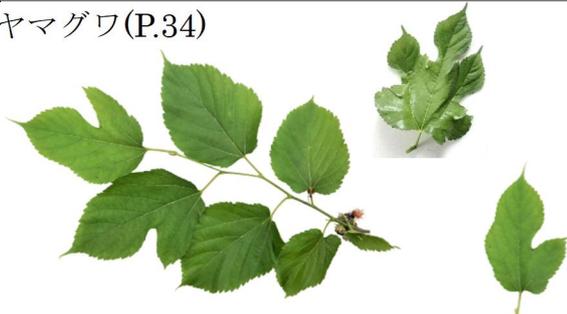
3 科ごとの一覧

クルミ科	
サワグルミ (P.40) 	オニグルミ (P.18) 

ミカン科
キハダ (P.20) 

ウコギ科	
ハリギリ (P.45) 	コシアブラ (P.23) 

モクレン科	
ホオノキ (P.31) 	タムシバ (P.27) 

クワ科
ヤマグワ (P.34) 

アオイ科	
オオバボダイジュ (P.38) 	シナノキ (P.41) 

ミズキ科	
ミズキ (P.32) 	ヤマボウシ (P.35) 

クスノキ科	
シロダモ (P.42) 	タブノキ (P.43) 

ヤナギ科	モチノキ科
ヤマナラシ (P.47) 	アオハダ (P.12) 

カバノキ科	
ケヤマハンノキ(P.39)	ハンノキ(P.46)
	

ヒノキ科	マツ科
スギ(P.26)	アカマツ(P.13)
	

バラ科			
カスミザクラ (P.19)	ウワミズザクラ(P.17)	アズキナシ(P.14)	ナナカマド(P.28)
			

ブナ科			
ブナ(P.30)	ミズナラ(P.33)	コナラ(P.24)	クリ(P.21)
			

トウダイグサ科
アカメガシワ(P.37)


モクセイ科	
アオダモ(P.11)	ヤチダモ(P.48)
	

ムクロジ科

イタヤカエデ(P.15)



トチノキ(P.44)



ヤマモミジ(P.36)



ウリハダカエデ(P.16)



ハウチワカエデ(P.29)



コハウチワカエデ(P.25)



ニレ科

ケヤキ(P.22)



4 掲載樹種一覧（五十音順）

樹種名	科名	判別資料 番号	掲載 頁	出現 頻度※	備考
アオダモ	モクセイ科	1	P. 11	高	
アオハダ	モチノキ科	2	P. 12	高	
アカマツ	マツ科	3	P. 13	高	
アカメガシワ	トウダイグサ科	27	P. 37	中	
アズキナシ	バラ科	4	P. 14	高	
イタヤカエデ	ムクロジ科	5	P. 15	高	
ウダイカンバ	カバノキ科	—	—	中	次年度以降掲載予定
ウリハダカエデ	ムクロジ科	6	P. 16	高	
ウワミズザクラ	バラ科	7	P. 17	高	
エゾヤマザクラ	バラ科	—	—	中	次年度以降掲載予定
オオバボダイジュ	アオイ科	28	P. 38	中	
オニグルミ	クルミ科	8	P. 18	高	
カシワ	ブナ科	—	—	低	次年度以降掲載予定
カシミザクラ	バラ科	9	P. 19	高	
キハダ	ミカン科	10	P. 20	高	
クリ	ブナ科	11	P. 21	高	
ケヤキ	ニレ科	12	P. 22	高	
ケヤマハンノキ	カバノキ科	29	P. 39	中	一部の写真は次年度以降掲載予定
コシアブラ	ウコギ科	13	P. 23	高	
コナラ	ブナ科	14	P. 24	高	
コハウチワカエデ	ムクロジ科	15	P. 25	高	
サウグルミ	クルミ科	30	P. 40	中	
シナノキ	アオイ科	31	P. 41	中	
シロダモ	クスノキ科	32	P. 42	中	
スギ	ヒノキ科	16	P. 26	高	
タブノキ	クスノキ科	33	P. 43	中	
タムシバ	モクレン科	17	P. 27	高	
トチノキ	ムクロジ科	34	P. 44	中	
ナナカマド	バラ科	18	P. 28	高	
ハウチワカエデ	ムクロジ科	19	P. 29	高	
ハリギリ	ウコギ科	35	P. 45	中	
ハンノキ	カバノキ科	36	P. 46	中	
ブナ	ブナ科	20	P. 30	高	
ホオノキ	モクレン科	21	P. 31	高	
ミズキ	ミズキ科	22	P. 32	高	
ミズナラ	ブナ科	23	P. 33	高	
ヤチダモ	モクセイ科	38	P. 48	低	
ヤマグワ	クワ科	24	P. 34	高	
ヤマナラシ	ヤナギ科	37	P. 47	中	一部の写真は次年度以降掲載予定
ヤマボウシ	ミズキ科	25	P. 35	高	
ヤマモミジ	ムクロジ科	26	P. 36	高	

※出現頻度については、新潟県が過去に実施した「森林資源モニタリング調査（第2期）」の出現率による。

高：出現率10%以上

中：出現率 1%以上10%未満

低：出現率 1%未満、資料なし

5 樹種判別の資料

① 【アオダモ (別名: コバノトネリコ)】 (出現頻度: 高)

樹高 (サイズ感)



【葉の付き方】

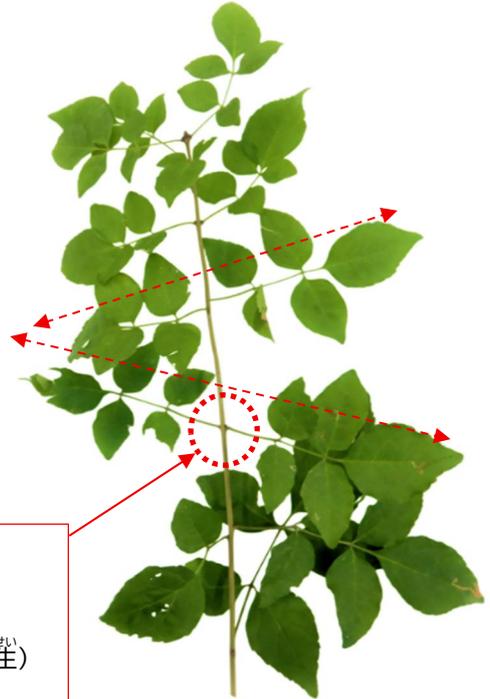
- ・茎の同じ位置に2枚の葉が向かい合ったいせいてついている(対生)
- ・向かい合った葉が、上下で向きを変え、十字の形じゅうじたいせいに並ぶ(十字対生)

※上から見た

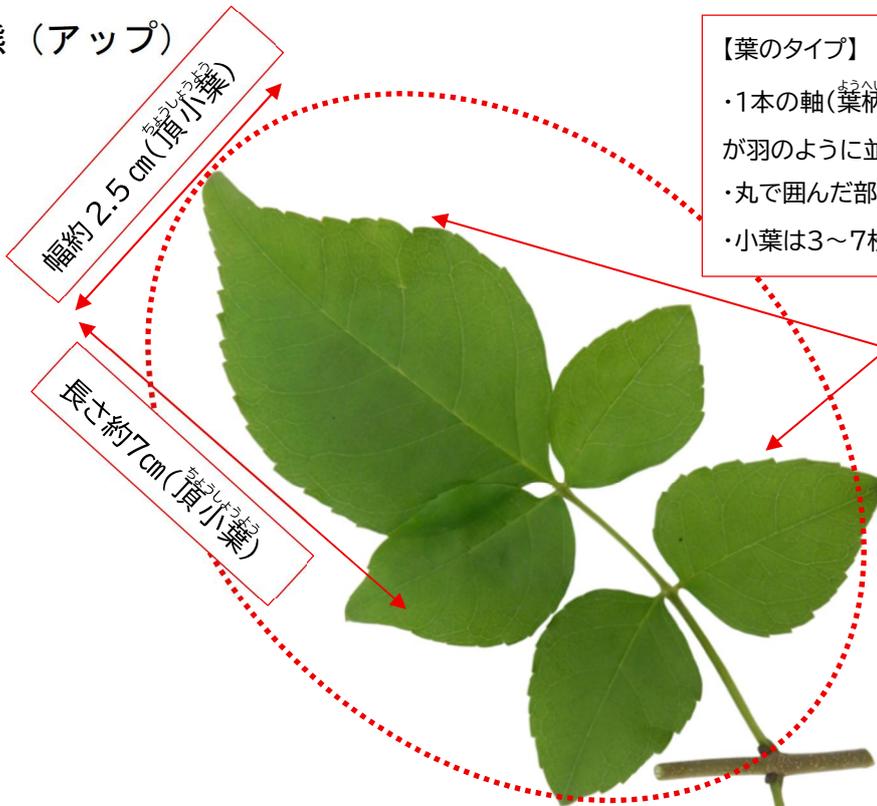
葉の付き方イメージ



葉の形態 (全体)



葉の形態 (アップ)



幅約2.5cm(頂小葉)

長さ約7cm(頂小葉)

【葉のタイプ】

- ・1本の軸(葉柄)の左右に、小さな葉(小葉)が羽のように並んでついている(羽状複葉)
- ・丸で囲んだ部分が1枚の葉
- ・小葉は3~7枚(1~3対)

【葉のふち(葉縁)】

- ・ギザギザ(鋸歯)がある

・用途: 床柱などの建築材、たんす箆筒などの家具、木製バットやラケット等の運動用具、樹皮は漢方で秦皮しんぴと呼ばれ、がんじつ眼疾、げり下痢、きょうせい強精等に用いられた。

② 【アオハダ】（出現頻度：高）

樹高（サイズ感）



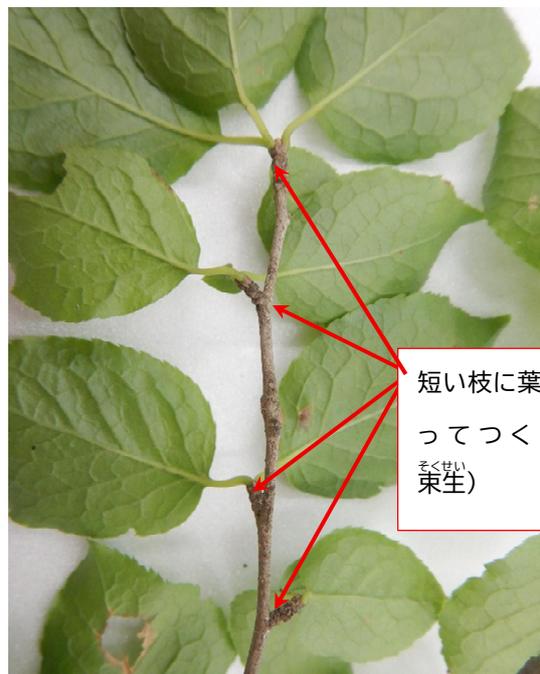
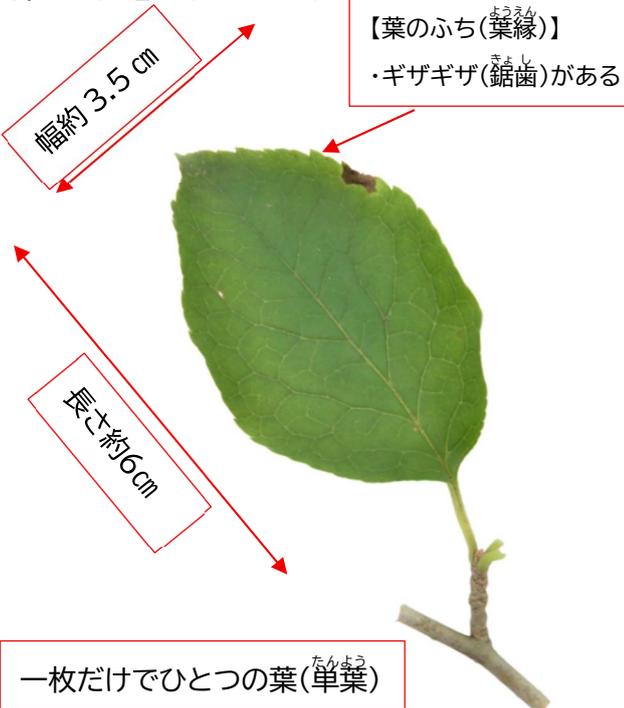
葉の形態（全体）



【葉の付き方】

- ・長く伸びる枝に短い枝(葉)が互い違いにつく(長枝に互生)
- ・枝の先端または短い枝に葉がまとまってつく(短枝に叢生)

葉の形態（アップ）



長く伸びる枝に短い枝(葉)が交互につく(長枝に互生)

・類似樹種：ウメモドキ(同じモチノキ科でアオハダは別名マルバウメモドキと呼ばれる)

・用途：寄木細工、器具材、ろくろ細工、マッチ軸木などに利用。若芽は食用、葉は茶の代用。

③【アカマツ（別名：メマツ）】（出現頻度：高）

樹高（サイズ感）



葉の形態



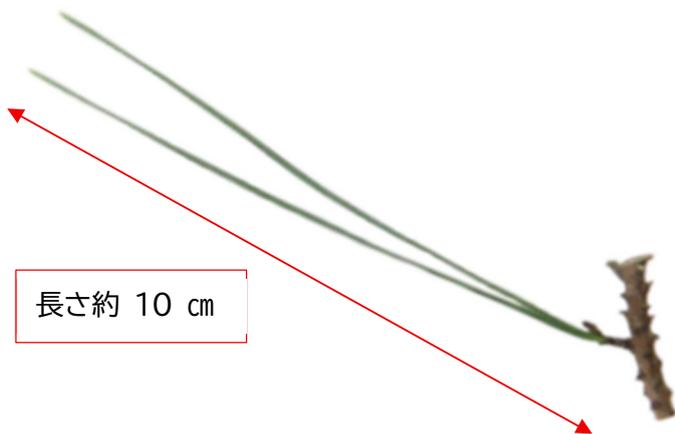
【葉の付き方】

長く伸びる枝(長枝)につ
く短い枝(短枝)は互い違
いにつき(互生)、らせん状
に並んでいる。

長く伸びる枝(長枝)

短い枝(短枝)

葉の形態（アップ）



長さ約 10 cm

- ・葉は針状で細長い
- ・短い枝(短枝)に 2 本の葉が束になってつく(束生)

・用途：建築、造船、パルプ等に広く利用

④【アズキナシ（別名：ハカリノメ）】（出現頻度：高）

樹高（サイズ感）



葉の形態（全体）

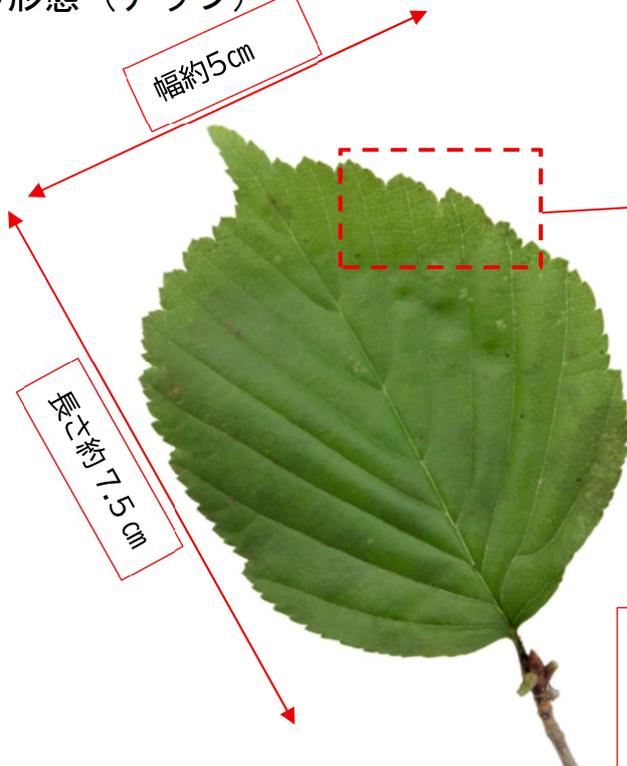


短い枝に葉が数枚まとまってつく（短枝に束生）

【葉の付き方】

- ・長く伸びる枝に短い枝（葉）が互い違いにつく（長枝に互生）
- ・枝の先端または短い枝に葉がまとまってつく（短枝に束生）

葉の形態（アップ）



【葉のタイプ】

- ・一枚だけでひとつの葉（単葉）



【葉のふち（葉縁）】

- ・大きなギザギザのそれぞれのふちに小さなギザギザがある（重鋸歯）

【表面の筋（葉脈）】

- ・葉のふちまで届き、表面でへこみ、裏面は突き出ている。

・用途：材は硬く、建築材、家具材、くり物材、薪炭材^{しんたんざい}として利用し、樹皮は染料とする。

⑤【イタヤカエデ(変種：アカイタヤ、ウラジロイタヤ、エゾイタヤ、オニイタヤ)】(出現頻度：高)

樹高 (サイズ感)



葉の形態 (全体)



【葉の付き方】

・茎の同じ位置に2枚の葉が向かい合っている(対生)^{たいせい}

葉の形態 (アップ)

幅約 12 cm

【葉のタイプ】

・一枚だけでひとつの葉(単葉)^{たんよう}

長さ約 11 cm

【表面の筋(葉脈)^{ようみゃく}】

・葉のつけ根から5~9本の筋が手のひらを広げたように広がっている(掌状脈)^{しょうじょうみゃく}

【葉のふち(葉縁)^{ようえん}】

・浅めの切れ込みがあり、5~9に分かれる
・ギザギザが無い(全縁)^{ぜんえん}

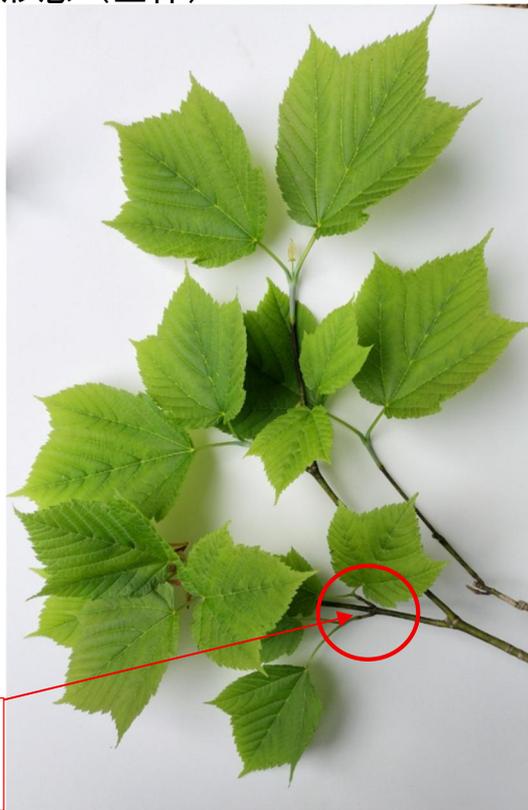
・用途：ベニヤ原料、スキー材、建築材、器具材、家具材。樹液から蔗糖^{しょとう}がとれる。

⑥ 【ウリハダカエデ】（出現頻度：高）

樹高（サイズ感）



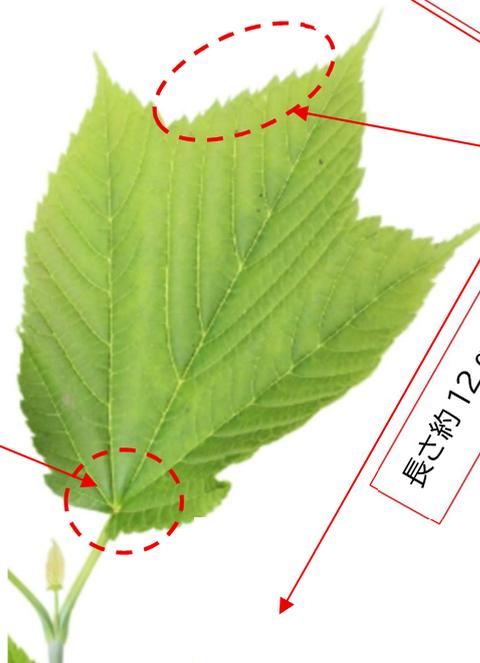
葉の形態（全体）



【葉の付き方】

・茎の同じ位置に2枚の葉が向かい合っている(対生)^{たいせい}

葉の形態（アップ）



幅約 11 cm

長さ約 12 cm

【葉のタイプ】

・一枚だけでひとつの葉(単葉)^{たんよう}

【表面の筋(葉脈)】^{ようみやく}

・葉のつけ根から、5本の筋が手のひらを広げたように広がっている(掌状脈)^{しょうじょうみやく}



【葉のふち(葉縁)】^{ようえん}

・浅めの切れ込みがあり、3~5に分かれる
・大きなギザギザのそれぞれのふちに小さなギザギザがある(重鋸歯)^{じゅうさぎし}

・用途: 軽軟だが木理は密。くり物材、^{きょうぎざい} 経木材、^{はしざい} 箸材、^{がんぐざい} 玩具材など。樹皮は丈夫で、^{かわみ} 皮箕、^{みの} 蓑など。

⑦【ウワミズザクラ】（出現頻度：高）

樹高（サイズ感）



葉の形態（全体）



【葉の付き方】

・葉が茎に1枚ずつ、互い違いについている(互生)

葉の形態（アップ）

【葉のふち(葉縁)】

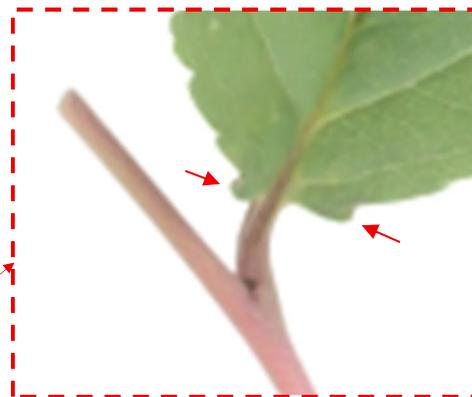
・ギザギザ(鋸齒)がある

幅約5cm

長さ約10cm

【葉のタイプ】

・一枚だけでひとつの葉(単葉)



葉のつけ根の最初のギザギザに1対の小さな点・ふくらみのようなもの(蜜腺)があるが、不明瞭で目立たない。

・用途:材は強靱で木理は緻密、彫刻材、家具材、道具の柄など。樹皮は桜皮細工(樺細工)、樹皮と根から染料。果実の塩づけにしたものを杏仁子(あんじんご)といって売る(新潟)。古くは亀ト(きぼく)の時にこの材をつかった。

⑧【オニグルミ】（出現頻度：高）

樹高（サイズ感）



葉の形態（全体）



【葉の付き方】

・葉が茎に1枚ずつ、互い違いについている（互生）

葉の形態（アップ）

【葉のふち（葉縁）】

・ギザギザ（鋸歯）がある

（側小葉）
長さ約13 cm

（側小葉）
幅約5.5 cm

【葉のタイプ】

・1本の軸（葉柄）の左右に、小さな葉（小葉）
が羽のように並んでついている（羽状複葉）
・丸で囲んだ部分が1枚の葉

葉の裏面は柔らかい毛が密生
し、ややべたつく感触がある

・用途：実は食用。材は優良で建築材、器具材、機械材、樹皮は染料に利用。

⑨ 【カスミザクラ】（出現頻度：高）

樹高（サイズ感）



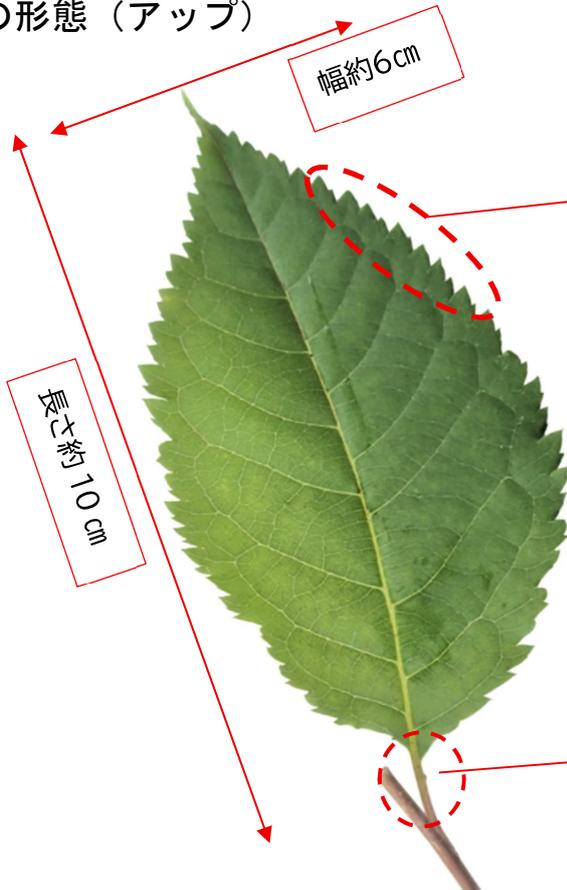
葉の形態（全体）



【葉の付き方】

・葉が茎に1枚ずつ、互い違いについている(互生)^{ごせい}

葉の形態（アップ）

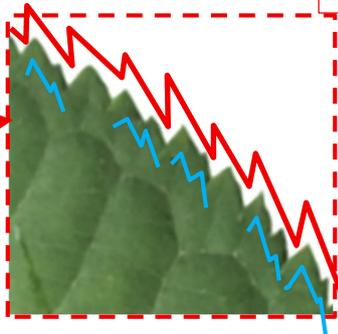


【葉のタイプ】

・一枚だけでひとつの葉(単葉)^{たんよう}

【葉のふち(葉縁)】

・大きなギザギザのそれぞれに小さなギザギザがある(重鋸歯)^{じゅうきょし}



葉の軸(葉柄)の上部に小さな点・ふくらみのようなもの(蜜腺)^{みつせん}がある



・用途：建築、家具、楽器、彫刻など

⑩【キハダ】(出現頻度：高)

樹高 (サイズ感)



葉の形態 (全体)



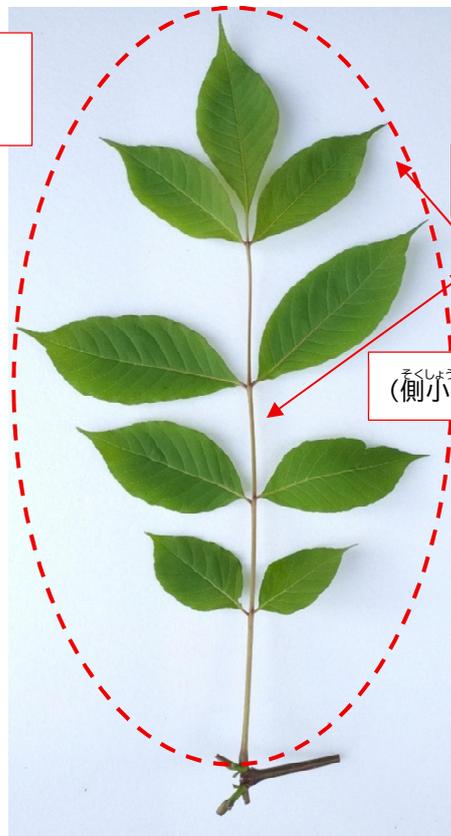
【葉の付き方】

・茎の同じ位置に2枚の葉が向かい合っている(対生^{たいせい})

葉の形態 (アップ)

【葉のふち(葉縁^{ようえん})】

・ギザギザが無い(全縁)



【葉のタイプ】

・1本の軸(葉柄^{ようへい})の左右に、小さな葉(小葉^{しょうよう})
が羽のように並んでついている(羽状複葉^{うしゅうふくよう})
・丸で囲んだ部分が1枚の葉

(側小葉^{そくしょうよう})幅約3cm

(側小葉^{そくしょうよう})長さ約8cm

・用途: 健胃剤^{けんいざい}、染料^{せんりょう}。材は優良で建築材、器具材、土木用材等

⑪【クリ】（出現頻度：高）

樹高（サイズ感）



葉の形態（全体）



【葉の付き方】

・葉が茎に1枚ずつ、互い違いについている(互生)

葉の形態（アップ）



幅約 5.5 cm

長さ約 15 cm

【葉のタイプ】

・一枚だけでひとつの葉(単葉)

【葉のふち(葉縁)】

・ギザギザ(鋸歯)があり、先端は針のようになっており(芒状)、緑色である



・用途: 堅果は食用。材は枕木、土台、シイタケの原木。

⑫【ケヤキ】（出現頻度：高）

樹高（サイズ感）



葉の形態（全体）



【葉の付き方】

・葉が茎に1枚ずつ、互い違いで、左右2方向に綺麗に揃ってついている(二列互生)^{にれつごせい}

葉の形態（アップ）

【葉のふち(葉縁)^{ようりん}】

・ギザギザ(鋸歯)^{きょし}がある



【葉のタイプ】

・一枚だけでひとつの葉(単葉)^{たんよう}

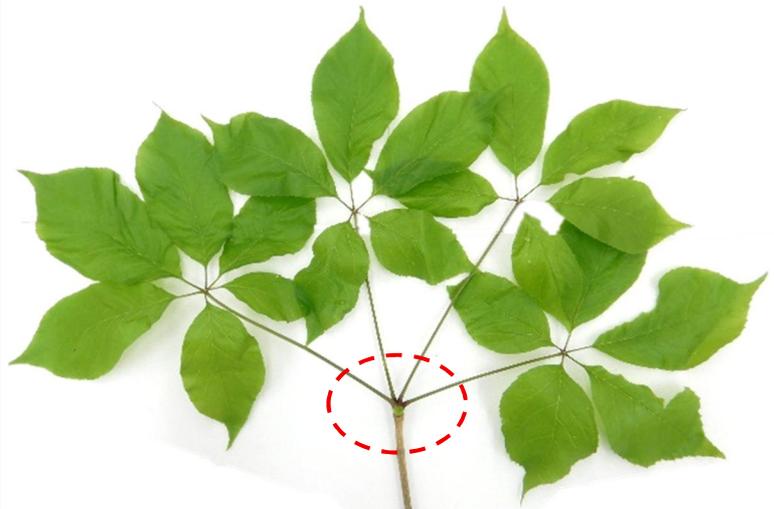
・用途：材は優良で建築材、家具材、器具材、機械材、その他種々に利用。特に木目の美しい材は非常に高価で取引される。

⑬【コシアブラ（別名：ゴンゼツ）】（出現頻度：高）

樹高（サイズ感）



葉の形態（全体）



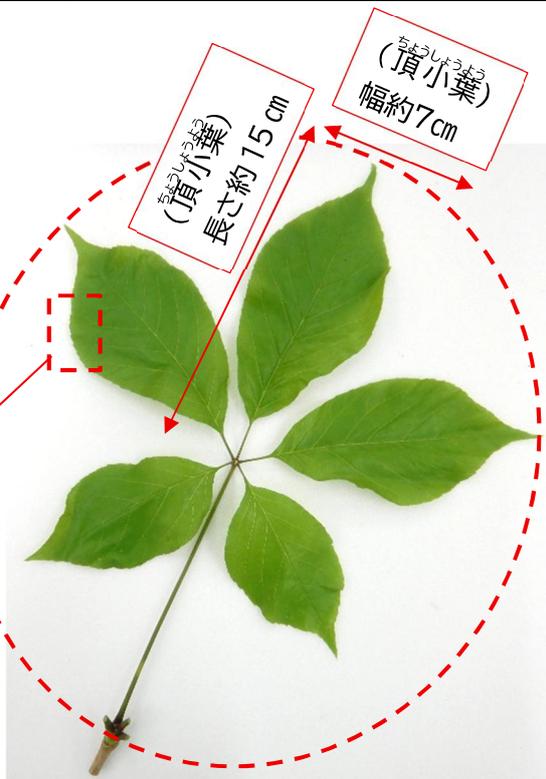
【葉の付き方】

- ・長く伸びる枝に短い枝(葉)が互い違いにつく(長枝に互生)
- ・枝の先端または短い枝に葉がまとまってつく(短枝に叢生)

葉の形態（アップ）

【葉のふち(葉縁)】

トゲ状のギザギザ(鋸歯)がある



【葉のタイプ】

- ・1本の葉のつけ根から、手のひらを広げたように、5枚の小さな葉が放射状に出ている葉(掌状複葉)
- ・丸で囲んだ部分が1枚の葉

・類似樹種：ウコギ、タカノツメ、ヤマウルシ、ハリギリなど

・用途：材は軽軟、特に経木材として賞用、箱、箬、楊枝、下駄などに利用。若芽はタラノキと同様、山菜として食用。

⑭【コナラ（別名：ハハソ）】（出現頻度：高）

樹高（サイズ感）



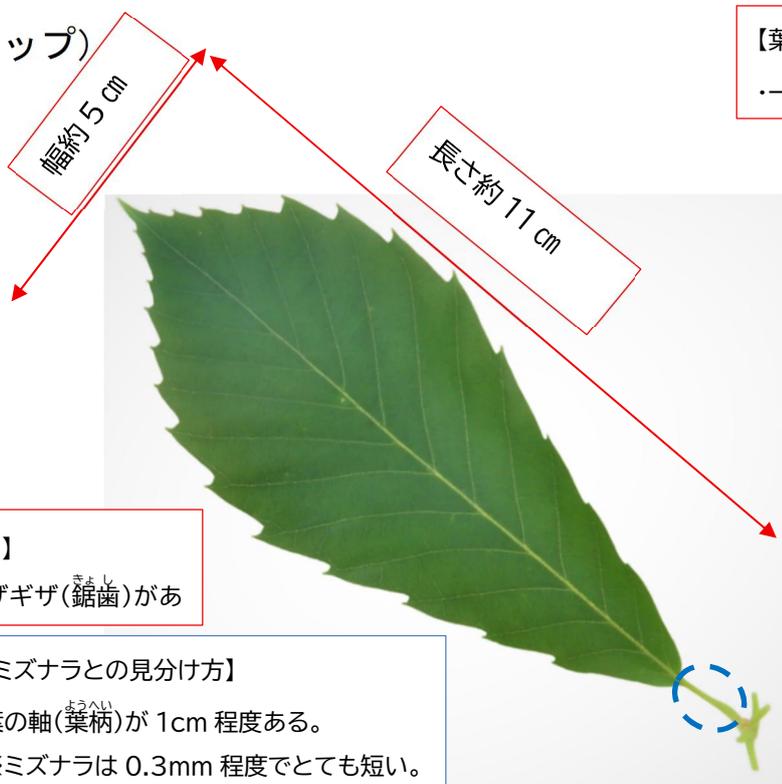
葉の形態（全体）



【葉の付き方】

・葉が茎に1枚ずつ、互い違いについでいる(互生)

葉の形態（アップ）



【葉のタイプ】

・一枚だけでひとつの葉(単葉)

【葉のふち(葉縁)】

・粗目で鋭いギザギザ(鋸歯)があ

【ミズナラとの見分け方】

葉の軸(葉柄)が1cm程度ある。
※ミズナラは0.3mm程度でとても短い。

・用途：材はミズナラと同じ用途に供され、ミズナラより靱性に乏しく用材としては劣るが、薪炭材およびシイタケのほだ木としてはまattering

⑮ 【コハウチワカエデ (別名：イタヤメイゲツ)】 (出現頻度：高)

樹高 (サイズ感)



葉の形態 (全体)



【葉の付き方】

・茎の同じ位置に 2 枚の葉が向かい合っている(対生)^{たいせい}

葉の形態 (アップ)



【葉のタイプ】

・一枚だけでひとつの葉(単葉)^{たんよう}

【表面の筋(葉脈)】^{ようみやく}

・葉のつけ根から9~11本の筋が手のひらを広げたように広がっている(掌状脈)^{しょうじょうみやく}

【葉のふち(葉縁)】^{ようえん}

・切れ込みがあり、9~11に分かれる
・ふちにはギザギザ(鋸歯)^{きょし}がある

・用途:材はやや重厚、建築材、家具材、箱材、楽器材、彫刻材などに利用。また庭木として賞用

⑩【スギ】（出現頻度：高）

樹高（サイズ感）



葉の形態（全体）



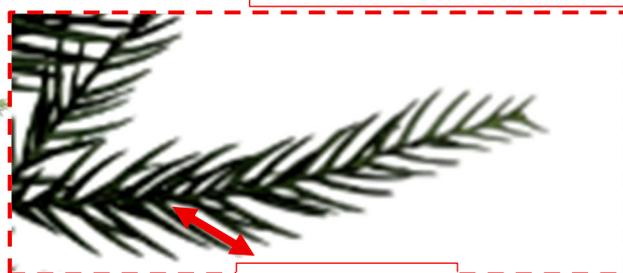
葉の形態（アップ）



【葉の付き方】

・葉が茎に1枚ずつ、互い違いについている(互生^{ごせい})

葉は鎌状の針形、緑色で無毛



長さ約0.8 cm

・用途：建築材、家具、器具、包装。樹皮は屋根葺用に利用。

⑰【タムシバ（別名：カムシバ）】（出現頻度：高）

樹高（サイズ感）



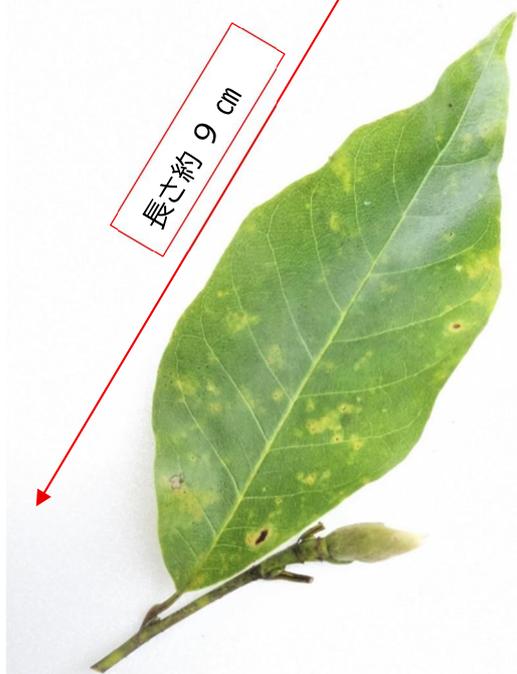
葉の形態（全体）



【葉の付き方】

・葉が茎に1枚ずつ、互い違いについている(互生)

葉の形態（アップ）



幅約 3.5 cm

【葉のタイプ】

・一枚だけでひとつの葉(単葉)

【葉のふち(葉縁)】

・ギザギザが無い(全縁)

葉をもむと良い香りがある

・用途：枝に芳香がある。皮付きの細いまっすぐな幹を茶室等のタルキにつかう。

⑱【ナナカマド】（出現頻度：高）

樹高（サイズ感）



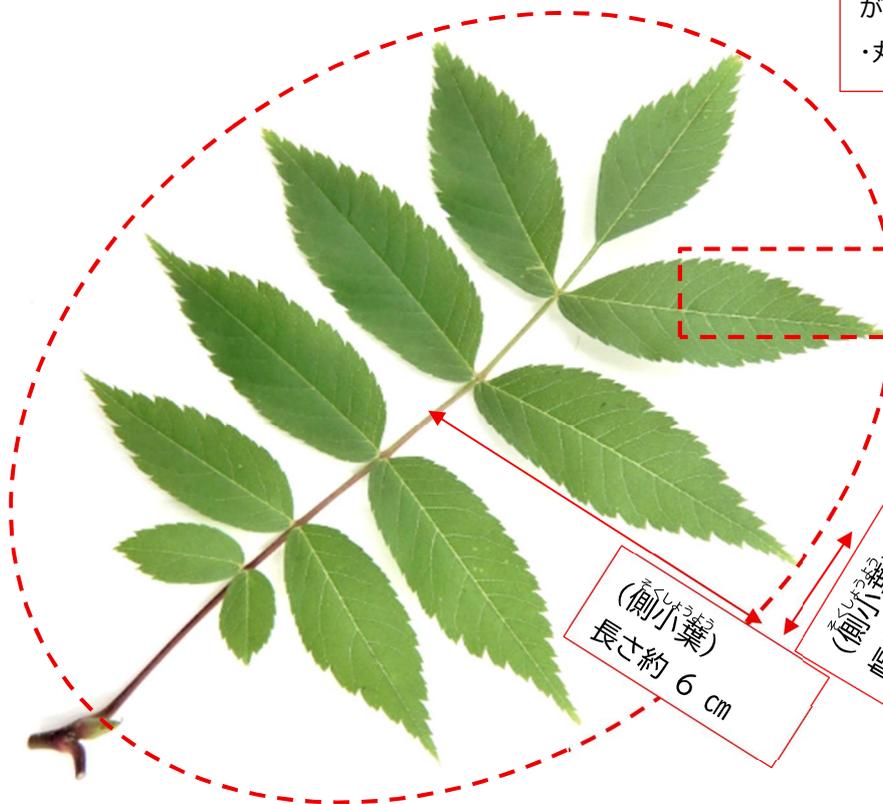
葉の形態（全体）



【葉の付き方】

・葉が茎に1枚ずつ、互い違いについている(互生)

葉の形態（アップ）



(側小葉)
長さ約 6 cm

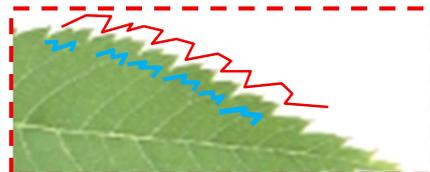
(側小葉)
幅約 1.5 cm

【葉のタイプ】

・1本の軸(葉柄)の左右に、小さな葉(小葉)が羽のように並んでついている(羽状複葉)
・丸で囲んだ部分が1枚の葉

【葉のふち(葉縁)】

・大きなギザギザのそれぞれのふちに小さなギザギザがある(重鋸歯)



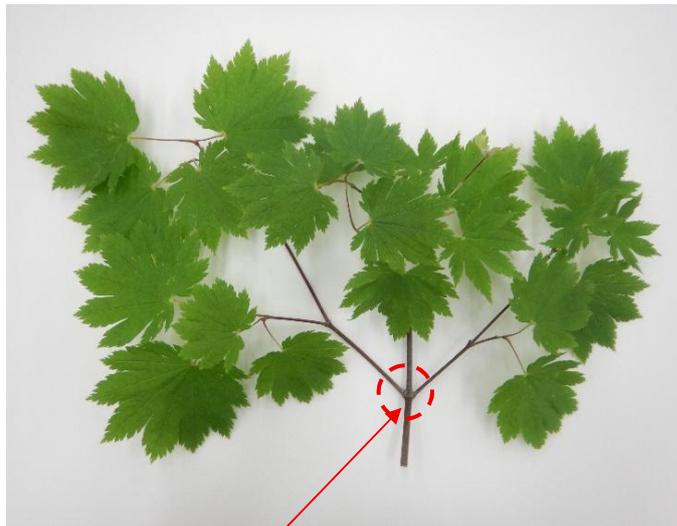
・用途:材は硬く、木理が緻密で、家具材、器具材などに利用

①9 【ハウチワカエデ】（出現頻度：高）

樹高（サイズ感）



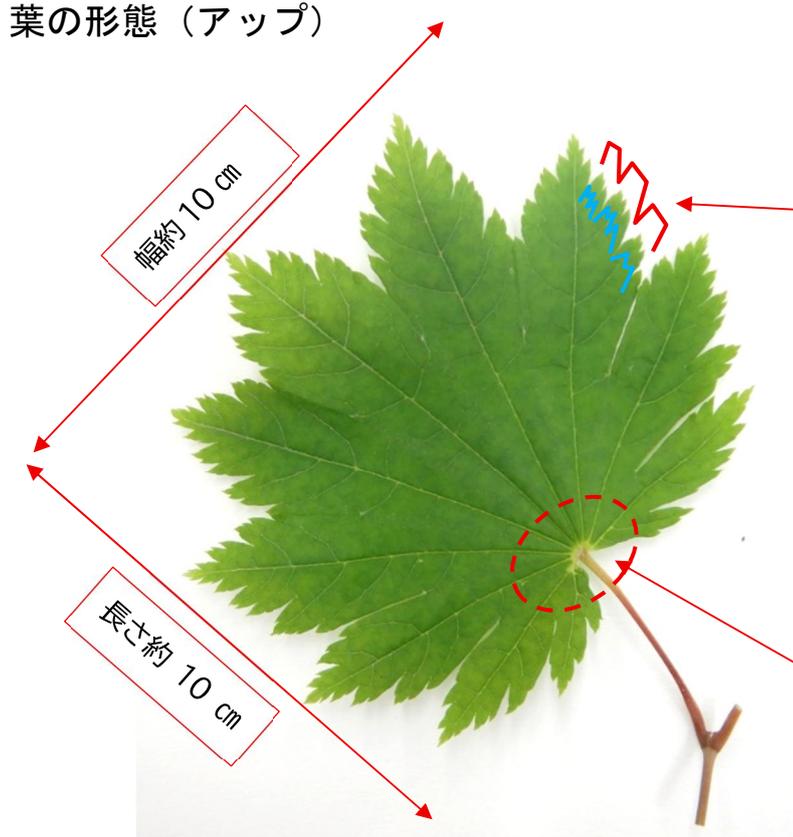
葉の形態（全体）



【葉の付き方】

・茎の同じ位置に2枚の葉が向かい合っ^{たいせい}てついている（対生）

葉の形態（アップ）



【葉のタイプ】

・一枚だけでひとつの葉^{たんよう}（単葉）

【葉のふち^{ようえん}（葉縁）】

・切れ込みがあり、9～11に分かれる
・大きなギザギザのそれぞれのふちに小さなギザギザがある（重鋸歯^{じゅうきょし}）

【表面の筋^{ようみやく}（葉脈）】

・葉のつけ根から9～11本の筋が手のひらを広げたように広がっている（掌状脈^{しょうじょうみやく}）

・用途：建築材、家具材、箱材、楽器材、彫刻材など

⑳【ブナ（別名：ソバグリ）】（出現頻度：高）

樹高（サイズ感）



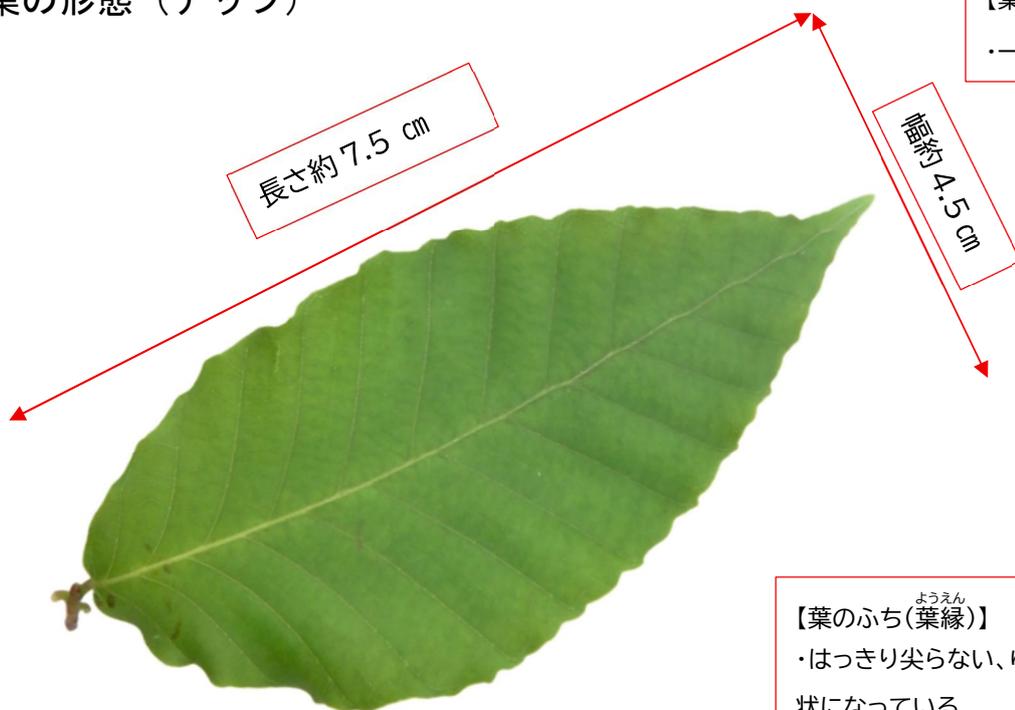
葉の形態（全体）



【葉の付き方】

・葉が茎に1枚ずつ、互い違いについている(互生)^{ごせい}

葉の形態（アップ）



【葉のタイプ】

・一枚だけでひとつの葉(単葉)^{たんよう}

【葉のふち(葉縁)^{ようえん}】

・はっきり尖らない、ゆるやかな波のような形状になっている

・用途：器具、家具、枕木、ベニヤ、パルプなどに広く利用

⑳ 【ホオノキ】 (出現頻度：高)

樹高 (サイズ感)



葉の形態 (全体)



【葉の付き方】

・葉が茎に 1 枚ずつ、互い違いについていて(互生)、枝先に集中する

葉の形態 (アップ)

幅約 6 cm

長さ約 15 cm



【葉のタイプ】

・一枚だけでひとつの葉(単葉)

【葉のふち(葉縁)】

・ギザギザが無く(全縁)、大きな波状となる

- ・よく似た樹種：トチノキ (遠目で見ると似ているが掌状複葉で小葉に鋸歯がある)
- ・利用方法…彫刻材、生糸製造用器具、装飾材、版木、鉛筆材、漆器木地、刀剣の鞘、下駄の歯、製図版等

②② 【ミズキ】（出現頻度：高）

樹高（サイズ感）



葉の形態（全体）



【葉の付き方】

・葉が茎に 1 枚ずつ、互い違いについていて(互生)、枝先に集中する

葉の形態（アップ）



【葉のタイプ】

・一枚だけでひとつの葉(単葉)

【葉のふち(葉縁)】

・ギザギザが無く(全縁)、大きな波状となる

・用途：材は白色、加工しやすく、特に東北地方のこけし木地として賞用。クマノミズキ(葉が対生)は材が固く、ミズキより薪炭材として適する。

⑳ 【ミズナラ】 (出現頻度：高)

樹高 (サイズ感)



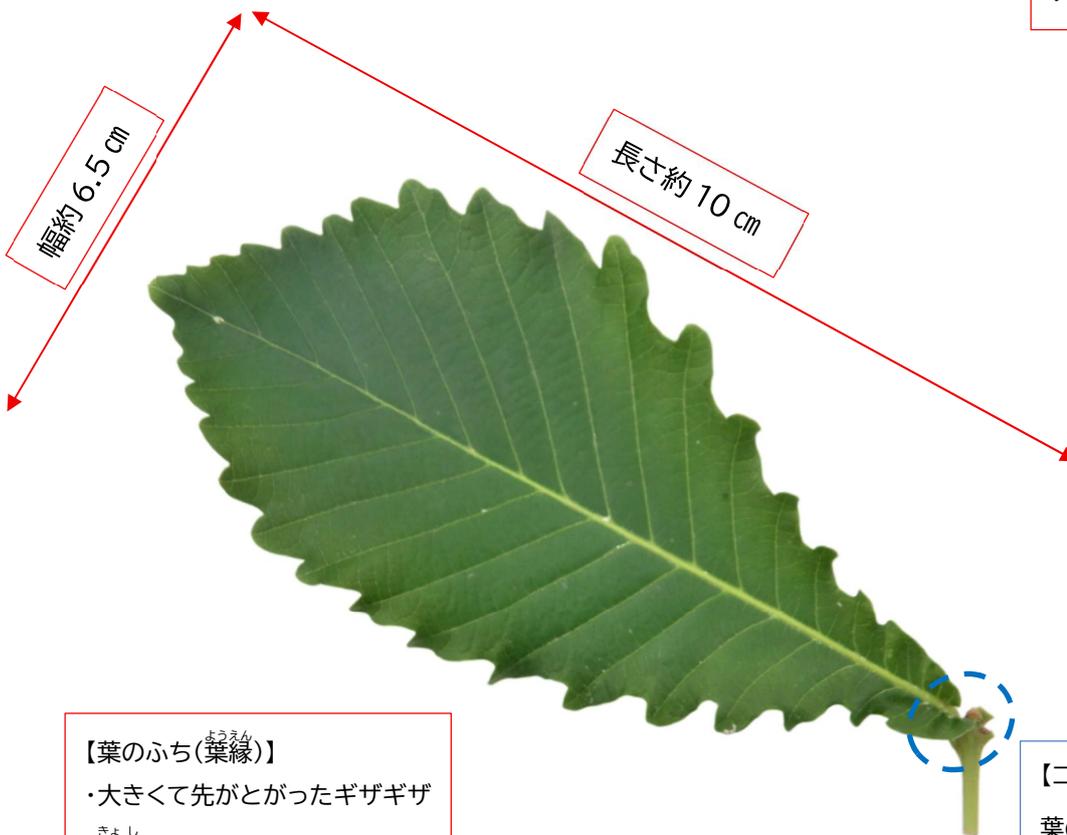
葉の形態 (全体)



【葉の付き方】

・葉が茎に1枚ずつ、互い違いについていて(互生)、
枝先に集中する

葉の形態 (アップ)



【葉のタイプ】

・一枚だけでひとつの葉

【葉のふち(葉縁)】

・大きくて先がとがったギザギザ
(鋸歯)がある

【コナラとの見分け方】

葉の軸(葉柄)が0.3mm程
度でとても短い。
※コナラは1cm程度ある。

・用途：柾目に美しい紋様が現れ、家具材、建築材、運動具材、洋酒樽などに賞用

②4 【ヤマグワ】 (出現頻度：高)

樹高 (サイズ感)



葉の形態 (全体)



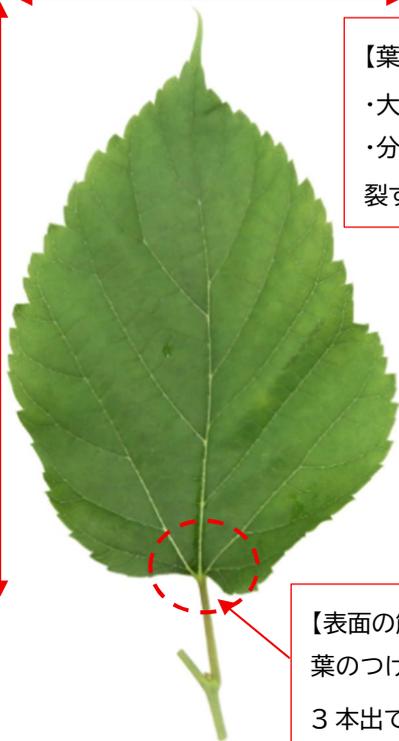
【葉の付き方】

・葉が茎に1枚ずつ、互い違いについている(互生)

葉の形態 (アップ)

幅約 5.5 cm

長さ約 10 cm



【葉のふち(葉縁)】

・大小のギザギザ(鋸歯)がある
・分裂しないもの、2~5 つに分裂するものがある

分裂
無し

【表面の筋(葉脈)】

葉のつけ根から、太い筋(主脈)が
3本出ている(三行脈)

【葉のタイプ】

・一枚だけでひとつの葉(単葉)

2裂



5裂



・用途：材は重硬、家具、指物、象眼細工、彫刻材などに賞用。集合果は食用。

②5 【ヤマボウシ】（出現頻度：高）

樹高（サイズ感）



葉の形態（全体）



【葉の付き方】
・茎の同じ位置に 2
枚の葉が向かい合っ
て付いている(対生^{たいせい})

葉の形態（アップ）



【葉のタイプ】
・一枚だけでひとつの葉(単葉^{たんよう})

【葉のふち(葉縁^{ようぎん})】
・ギザギザが無く(全縁)、大きな波状

・用途：材は密、重硬、強靱であるから器具材、機械材など。特に道具の柄、槌の頭、楔などに賞用。
集合果は食用。

②6 【ヤマモミジ】（出現頻度：高）

樹高（サイズ感）



葉の形態（全体）



【葉の付き方】

・茎の同じ位置に2枚の葉が向かい合って付いている(対生)^{たいせい}

葉の形態（アップ）

長さ 約8cm

幅 約7cm

【葉のタイプ】

・一枚だけでひとつの葉(単葉)^{たんよう}



【表面の筋(葉脈)】

・葉のつけ根から7~9本の筋が手のひらを広げたように広がっている(掌状脈)^{しょうじょうみゃく}

【葉のふち(葉縁)】

・深く切れ込み、7~9個に分かれる
・大きなギザギザのそれぞれのふちに小さなギザギザがある(重鋸歯)^{じゅうさぎょし}

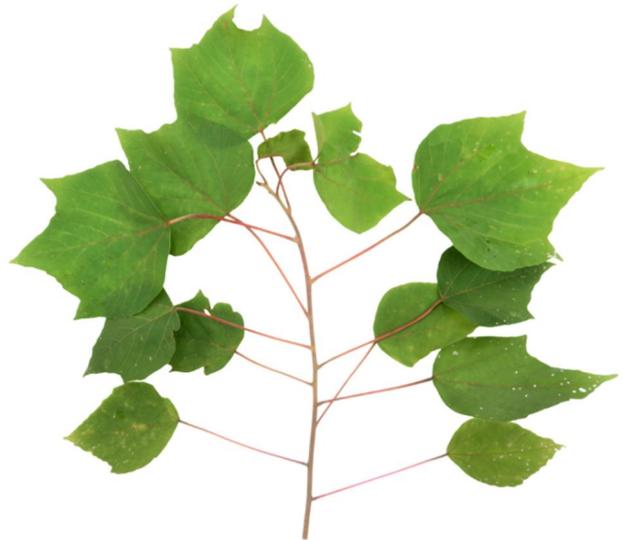
・用途：材はやや重厚、建築材、家具材、箱材、楽器材、彫刻材など。また庭木として賞用。

②7 【アカメガシワ（別名：ゴサイバ、ナモリバ、ヒサギ）】（出現頻度：－）

樹高（サイズ感）



葉の形態（全体）



【葉の付き方】

・葉が茎に1枚ずつ、互い違いについている(互生)

葉の形態（アップ）



長さ約 15 cm

幅約 10 cm

【葉のタイプ】

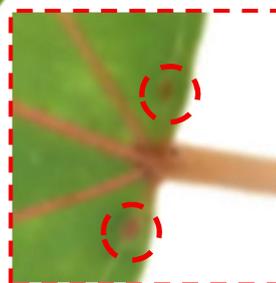
・一枚だけでひとつの葉(単葉)

【表面の筋(葉脈)】

葉のつけ根から、太い筋(主脈)が3本出ている(三行脈)

【葉のふち(葉縁)】

・浅く3つに分かれるものが多い
・ギザギザが無く(全縁)、波状



・葉のつけ根に1対の小さな点(腺体)がある

・用途: 葉は染材。昔、葉に食物をのせ、五菜葉、菜盛葉と呼んだ。

②8 【オオバボダイジュ】（出現頻度：中）

樹高（サイズ感）



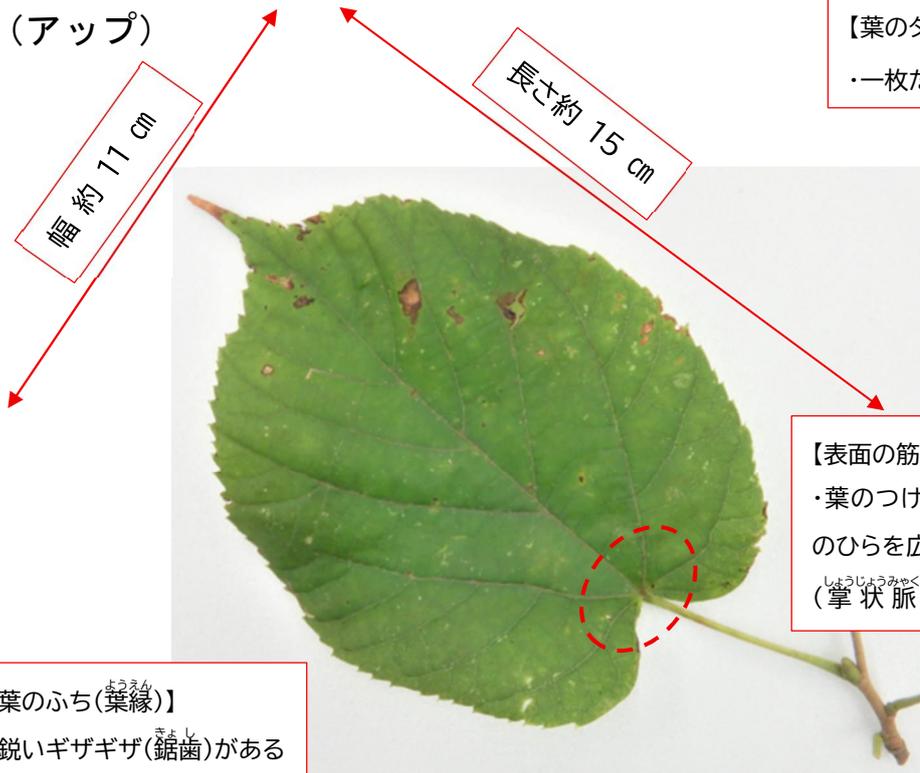
葉の形態（全体）



【葉の付き方】

・葉が茎に1枚ずつ、互い違いについている(互生)

葉の形態（アップ）



【葉のタイプ】

・一枚だけでひとつの葉(単葉)

【表面の筋(葉脈)】

・葉のつけ根から5~7本の筋が手のひらを広げたように広がっている(掌状脈)

【葉のふち(葉縁)】

・鋭いギザギザ(鋸歯)がある

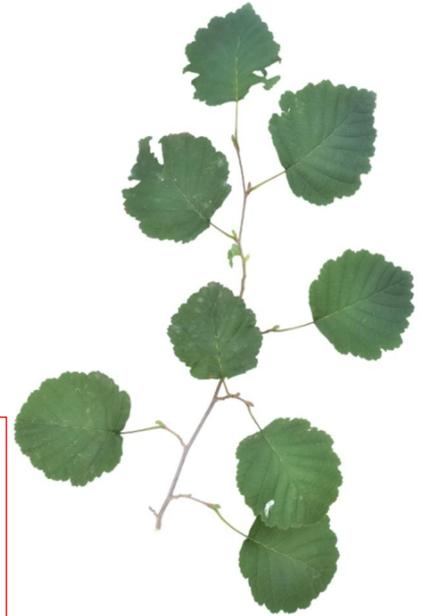
・用途:材は密で、建築、合板など、シナノキと同様に利用される。樹皮はシナノキより弱い。

②9 【ケヤマハンノキ（別名：ヤマハンノキ）】（出現頻度：中）

樹高（サイズ感）

準備中

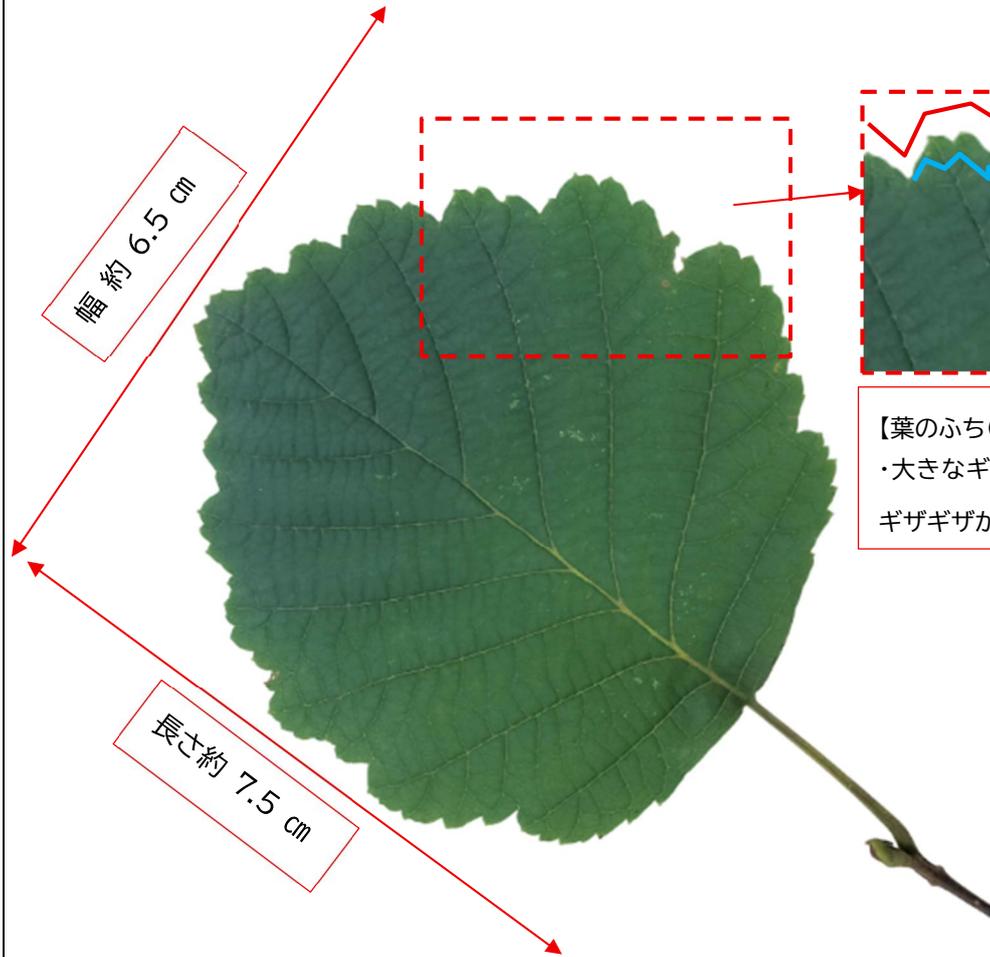
葉の形態（全体）



【葉の付き方】

・葉が茎に1枚ずつ、互い違いに付いている(互生)

葉の形態（アップ）



幅約 6.5 cm

長さ約 7.5 cm

【葉のタイプ】

・一枚だけでひとつの葉(単葉)

【葉のふち(葉縁)】

・大きなギザギザのそれぞれのふちに小さなギザギザがある(重鋸歯)

・利用方法: 材は器具、くり物などに賞用。樹は砂防用、ワサビ田の庇陰用。

③1 【シナノキ】 (出現頻度：中)

樹高 (サイズ感)



葉の形態 (全体)



【葉の付き方】

・葉が茎に1枚ずつ、互い違いについている(互生)

葉の形態 (アップ)

幅約6 cm

長さ約7 cm

【葉のタイプ】

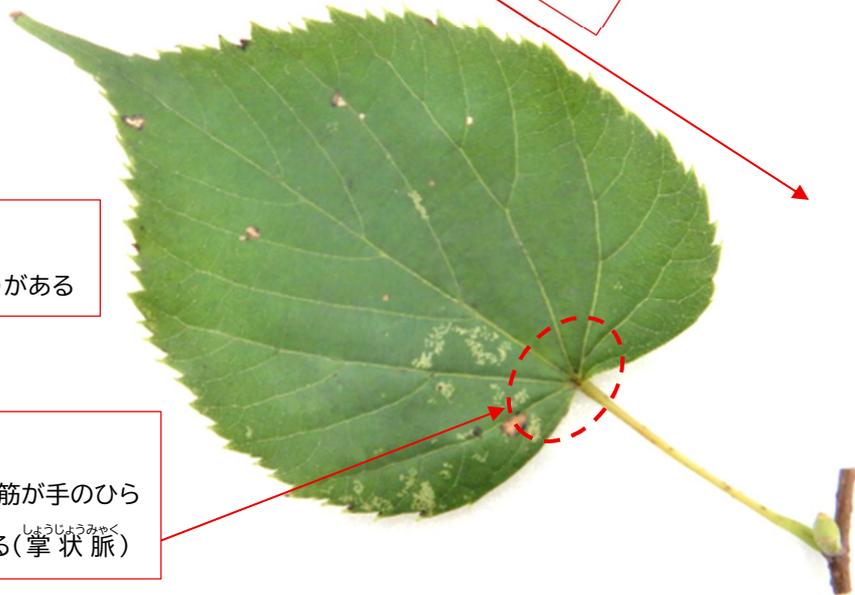
・一枚だけでひとつの葉(単葉)

【葉のふち(葉縁)】

・大小の鋭いギザギザ(鋸歯)がある

【表面の筋(葉脈)】

・葉のつけ根から5~7本の筋が手のひらを広げたように広がっている(掌状脈)



・用途: 木理は密であるが軽軟、建築材、器具材、ベニヤ材、マッチ軸木、鉛筆材、箱材、パルプ材。樹皮の繊維は、皮箕、縄、蓑、シナ布など。

③2 【シロダモ (別名 : ウラジロ)】 (出現頻度 : 中)

樹高 (サイズ感)



葉の形態 (全体)



【葉の付き方】

・葉が茎に 1 枚ずつ、互い違いについでいて(互生)、枝先に集中する

葉の形態 (アップ)

【葉のふち(葉縁)】

・ギザギザが無い(全縁)

【葉のタイプ】

・一枚だけでひとつの葉(単葉)

幅約 6 cm

長さ約 12 cm



【表面の筋(葉脈)】

・葉のつけ根の少し上から、太い筋(主脈)が 3 本出ている(三行脈)



葉の裏側は白っぽい灰色で全体に毛がある

・用途: 材は密であるがやや軟らかく、建築、器具、薪炭に利用。種子からは油をしぼって燈用とし、ろうそく用のつづ蠟をとる。

③③ 【タブノキ】 (出現頻度：中)

樹高 (サイズ感)



葉の形態 (全体)



【葉の付き方】

・葉が茎に 1 枚ずつ、互い違いについていて(互生)、枝先に集中する

葉の形態 (アップ)

幅 約 2.5 cm

【葉のタイプ】

・一枚だけでひとつの葉(単葉)

【葉のふち(葉縁)】

・ギザギザが無い(全縁)

葉の両面ともに無毛

長さ約 5 cm

・利用方法: 材はやや軽軟で、器具材、家具材、建築材、枕木などに利用。樹皮はタンニンを含み

きはちじょう かぼぞめ
黄八丈の樺染に用い、また葉と共に粘質物を有し、線香の粘結材とする。

③④ 【トチノキ】（出現頻度：中）

樹高（サイズ感）



葉の形態（全体）



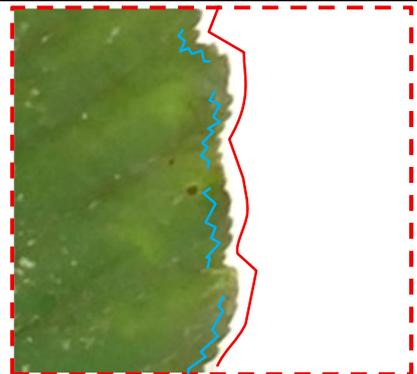
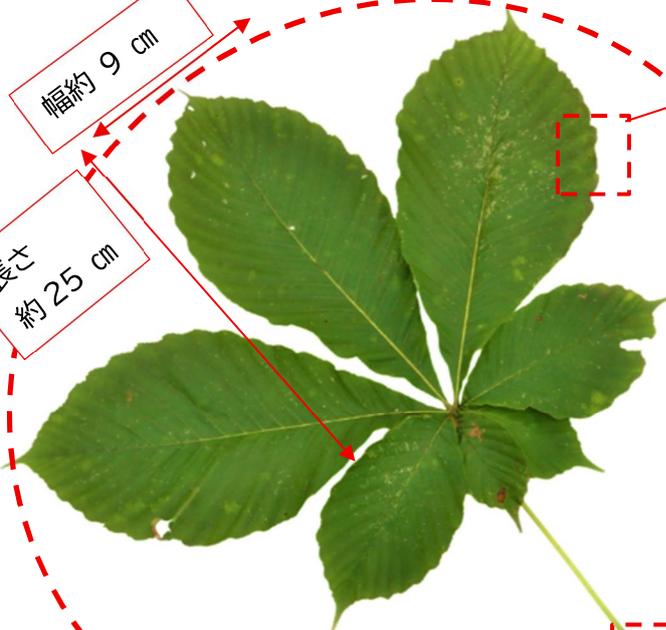
【葉の付き方】

・茎の同じ位置に2枚の葉が向かい合っている(対生)^{たいせい}

葉の形態（アップ）

幅約 9 cm

長さ
約 25 cm



【葉のふち(葉縁)】

・大きなギザギザのそれぞれのふちに
小さなギザギザがある(重鋸齒)^{じゅうきょし}



枝の先に鋭くとがった芽があり、表面は
ベタベタした樹脂で覆われている

【葉のタイプ】

・1本の葉のつけ根から、手のひらを広げたように、5~7枚
の小さな葉が放射状に出ている葉(掌状複葉)^{しょうじょうふくよう}
・丸で囲んだ部分が1枚の葉

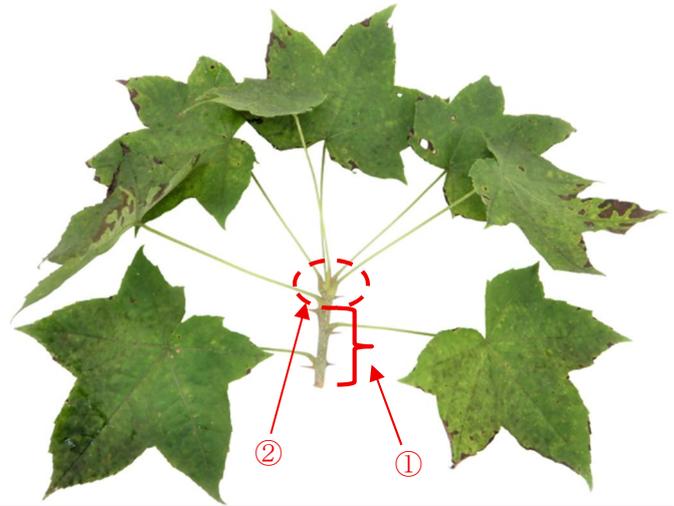
・用途: 軽軟^{けいなん}で、建築材、家具材、器具材、漆器^{きじ}木地、くり物材、彫刻材、ベニヤ材など。種子の澱粉^{でんぷん}(とちの実)を食する山里は各地にあり、蜜源植物としても優秀。

③⑤ 【ハリギリ (別名：センノキ)】 (出現頻度：中)

樹高 (サイズ感)



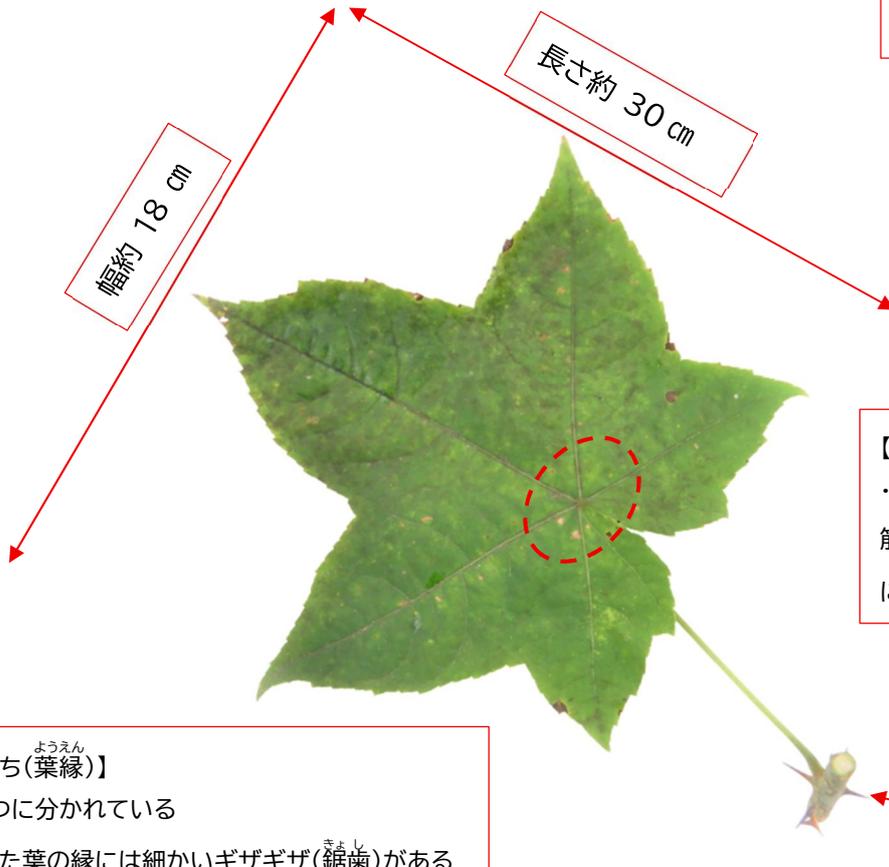
葉の形態 (全体)



【葉の付き方】

- ①長く伸びる枝に短い枝(葉)が交互につく(長枝に互生)
- ②枝の先端または短い枝に葉がまとまってつく(短枝に束生)

葉の形態 (アップ)



【葉のタイプ】

- 一枚だけでひとつの葉(単葉)

【表面の筋(葉脈)】

- 葉のつけ根から5~7本の筋が手のひらを広げたように広がっている(掌状脈)

【葉のふち(葉縁)】

- 5~9つに分かれている
- 分かれた葉の縁には細かいギザギザ(鋸歯)がある

- 枝には鋭くとがったトゲがつく

・用途: 固さは中位で光沢が美しく、加工は容易、家具材、建築材、船舶材、車輛材、樂器材、下駄材、ベニヤ材などに賞用。若芽はタラノキ同様食用。

③⑥ 【ハンノキ】 (出現頻度：中)

樹高 (サイズ感)

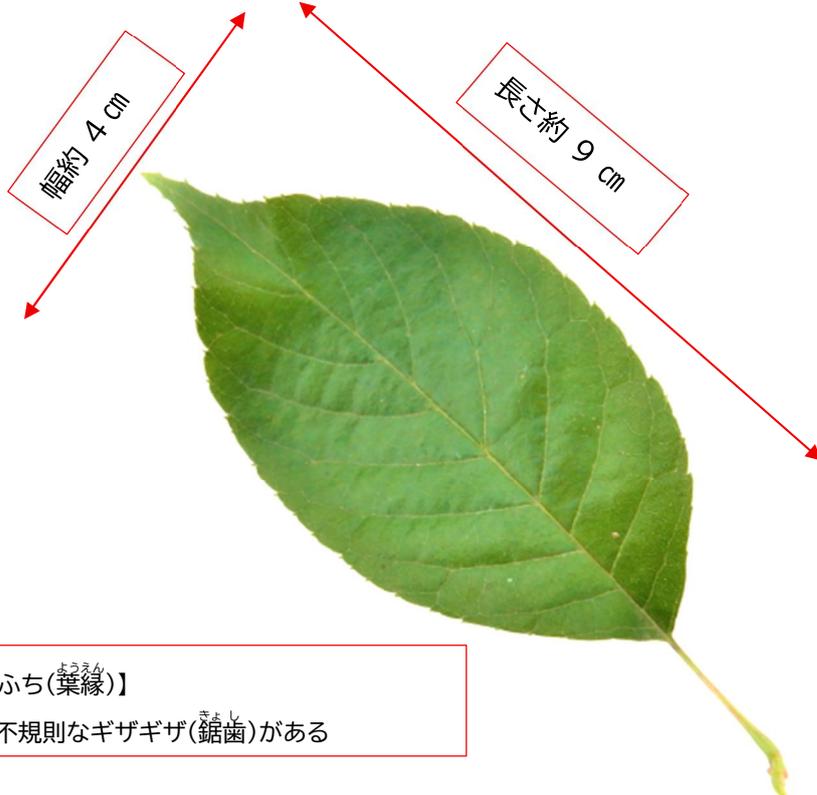


葉の形態 (全体)



【葉の付き方】
・葉が茎に1枚ずつ、互い
違いについている(互生)

葉の形態 (アップ)



【葉のタイプ】
・一枚だけでひとつの葉(単葉)

参考: 球果



【葉のふち(葉縁)】
・低く不規則なギザギザ(鋸歯)がある

・用途: 材は密で、建築、器具、家具、くり物、火薬用木炭など。樹皮と球果はタンニン、染料。

③7 【ヤマナラシ (別名：ハコヤナギ)】 (出現頻度：中)

樹高 (サイズ感)

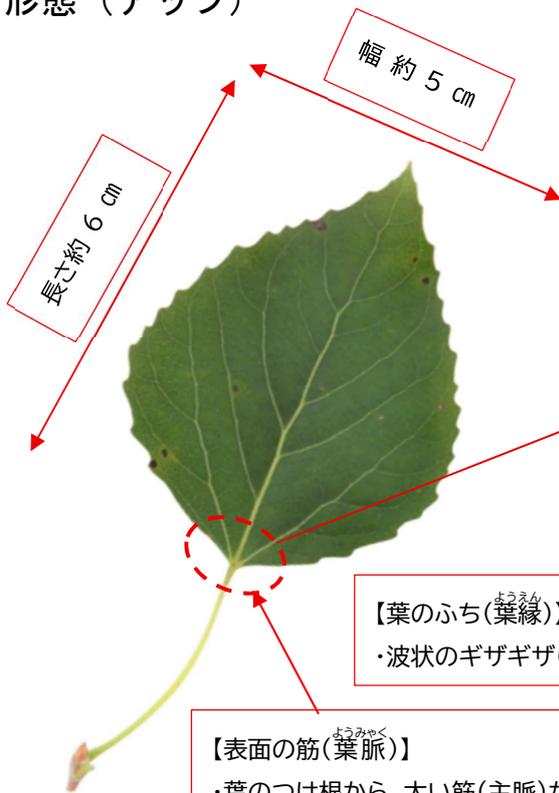
準備中

葉の形態 (全体)



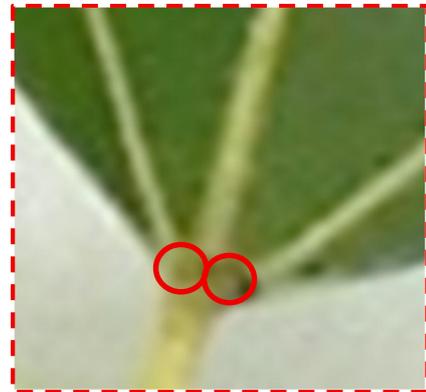
【葉の付き方】
・葉が茎に1枚ずつ、互い違いについている(互生)

葉の形態 (アップ)



【葉のタイプ】

・一枚だけでひとつの葉(単葉)



【葉のふち(葉縁)】

・波状のギザギザ(鋸歯)がある

葉のつけ根に小さなコブ状のもの(腺体)が2個つく

【表面の筋(葉脈)】

・葉のつけ根から、太い筋(主脈)が3~5本出ている

・用途：箱材、マッチ軸木、楊枝等

③⑧ 【ヤチダモ】 (出現頻度：低)

樹高 (サイズ感)



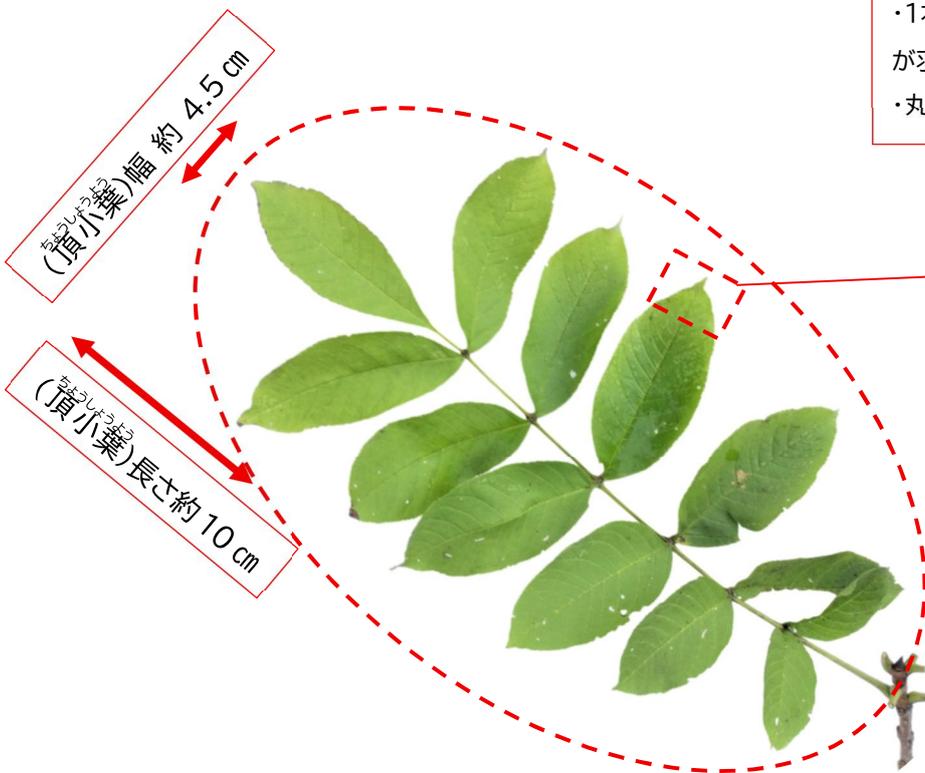
葉の形態 (全体)



【葉の付き方】

・茎の同じ位置に 2 枚の葉が向かい合って付いている (対生)^{たいせい}

葉の形態 (アップ)



【葉のタイプ】

- ・1本の軸(葉柄)の左右に、小さな葉(小葉)が羽のように並んで付いている(羽状複葉)
- ・丸で囲んだ部分が1枚の葉



【葉のふち(葉縁)】

・細かいギザギザ(鋸歯)がある

用途:材はやや重厚で家具材、器具材、ベニヤ材、運動具材などに賞用。

6 新潟県における主な更新樹種(出現頻度別)

掲載樹種

区分	出現頻度：高			出現頻度：中			出現頻度：低		
	樹種名	科名	萌芽能力	樹種名	科名	萌芽能力	樹種名	科名	萌芽能力
落葉広葉樹	アオダモ (別名：コバノトネリコ)	モクセイ科	○	アカシデ	カバノキ科	×	アベマキ	ブナ科	
	アオハダ	モチノキ科	○	アカメガシワ (別名：ゴザイハ、ナモリハ、ヒサギ)	トウダイグサ科		イイギリ	イイギリ科	
	アズキナシ (別名：ハカリノメ)	バラ科		アワブキ	アワブキ科	○	イヌエンジュ	マメ科	
	イタヤカエデ (変種：アカイタヤ、ウラジロイタヤ、エフイタヤ、オニイタヤ)	カエデ科	○	イヌザクラ	バラ科		ウラジロノキ	バラ科	
	ウリハダカエデ	カエデ科	○	イヌシデ	カバノキ科	○	エンジュ	マメ科	
	ウワミズザクラ	バラ科	○	ウダイカンバ	カバノキ科	×	オオイタヤメイゲツ	カエデ科	
	オニグルミ	クルミ科	○	エゾエノキ	ニレ科		オノエヤナギ	ヤナギ科	
	カスミザクラ	バラ科	○	エゾヤマザクラ (別名：オオヤマザクラ)	バラ科	○	オヒヨウ	ニレ科	○
	キハダ	ミカン科	×	エノキ	ニレ科	○	カシワ	ブナ科	○
	クリ	ブナ科	○	オオバボダイジュ	シナノキ科		カツラ	カツラ科	○
	ケヤキ	ニレ科	○	カラスザンショウ	ミカン科		コブシ	モクレン科	
	コシアブラ (別名：ゴンゼツ)	ウコギ科	×	キタコブシ	モクレン科		サイカチ	マメ科	
	コナラ (別名：ハハツ)	ブナ科	○	キリ	ゴマノハグサ科		シウリザクラ	バラ科	○
	コハウチワカエデ (別名：イタヤメイゲツ)	カエデ科	○	クヌギ	ブナ科	○	シラカンバ	カバノキ科	×
	タムシバ (別名：カムシバ)	モクレン科		クマシデ	カバノキ科	×	シロヤナギ	ヤナギ科	
	ナナカマド	バラ科	○	クマノミズキ	ミズキ科		ネコシデ (別名：ウラジロカンバ)	カバノキ科	
	ハウチワカエデ	カエデ科	○	ケヤマハンノキ (別名：ヤマハンノキ)	カバノキ科		ハリエンジュ (別名：ニセアカシア)	マメ科	○
	ブナ (別名：ソバグリ)	ブナ科	×	ケンボナシ	クロウメモドキ科		ハルニレ	ニレ科	○
	ホオノキ	モクレン科	○	サワグルミ	クルミ科		ヒノウチワカエデ	カエデ科	
	ミズキ	ミズキ科	×	サワシバ	カバノキ科		メクスリノキ	カエデ科	
	ミズナラ	ブナ科	○	シナノキ	シナノキ科	○	ヤシヤブシ (変種：ミヤマヤシヤブシ)	カバノキ科	○
	ヤマグワ	クワ科		タカノツメ	ウコギ科	×	ヤチダモ	モクセイ科	×
	ヤマボウシ	ミズキ科		ダケカンバ	カバノキ科	×	ヤマナシ	バラ科	
	ヤマモミジ	カエデ科		テツカエデ	カエデ科				
				トチノキ	トチノキ科	×			
				トネリコ	モクセイ科				
				ナツツバキ	ツバキ科	○			
				ナラガシワ	ブナ科				
			ニガキ	ニガキ科					
			ネムノキ	マメ科					
			ハクウンボク	エゴノキ科					
			ハリギリ (別名：センノキ)	ウコギ科	○				
			ハンノキ	カバノキ科	×				
			ヒトツバカエデ	カエデ科					
			ミズメ (別名：ヨグソミネバリ)	カバノキ科	×				
			ヤマザクラ	バラ科					
			ヤマトアオダモ	モクセイ科					
			ヤマナラシ (別名：ハコヤナギ)	ヤナギ科	○				
常緑広葉樹			ウラジログシ	ブナ科	○				
			シロダモ (別名：ウラジロ)	クスノキ科	○				
			ソヨゴ	モチノキ科	○				
			タブノキ	クスノキ科					
			ヤブツバキ	ツバキ科	○				
針葉樹	アカマツ (別名：メマツ)	マツ科				オオシラビソ	マツ科		
	スギ	ヒノキ科				カヤ	イチイ科		
						カラマツ	マツ科		
						キタゴヨウ (別名：ヒメコマツ)	マツ科		
						ヒノキ	ヒノキ科		
					ヒノキアスナロ	ヒノキ科			

※新潟県が過去に実施した「森林資源モニタリング調査」にて確認された新潟県内に生育する樹種のうち、図鑑等において高木性樹種とされる樹種を出現頻度別にまとめたもの
 ※萌芽能力については、「広葉樹施業の生態学」谷本丈夫著及び「天然更新完了基準書作成の手引き(解説編)」林野庁作成による
 ○：萌芽更新が期待できる
 ×：萌芽更新が期待できない
 「空欄」：データなし
 ※ハリエンジュ(ニセアカシア)については、環境省の産業管理外来種として位置付けられており、適切な管理が必要とされている。
 ※出現頻度については、新潟県が過去に実施した「森林資源モニタリング調査(第2期)」の出現率による。
 高：出現率10%以上
 中：出現率 1%以上10%未満
 低：出現率 1%未満、資料なし

7 その他

【全景写真の撮影例】



【調査プロットの設定・撮影例】 ※正方形プロットの場合



【稚樹の更新状況の撮影例】



【周辺の植生の高さを超えないが、被圧されていない稚樹の例】



【参考文献】

- 馬場 多久男『葉でわかる樹木』信濃毎日新聞社 1999
倉田 悟『原色日本林業樹木図鑑』（全4巻）林野庁監修 地球社 1964-1976
岡本 省吾『原色日本樹木図鑑』株式会社保育社 1959
山本 敏夫『新潟県樹木図鑑』新潟日報事業社 1987
林 将之『樹皮ハンドブック』第2版 株式会社文一総合出版 2009

【参考WEBサイト】

- Ecological Notes Web <https://ecological-information.com/>
庭木図鑑 植木ペディア <https://www.uekipedia.jp/>